

鼓童文化財団の人材育成

くらす・まなぶ・つくる ～2021年11月～

豊かな自然に囲まれた研修所で生活をともにし、切磋琢磨していく「太鼓芸能集団 鼓童」メンバー養成コースの研修生。
コロナ禍の影響による制約の多い中、悩み、迷いながらも、夢に向かって打ち込んでいます。
来年1月、2年生は研修を修了し、準メンバーへの選考の時を迎えます。また1年生は進級選考が待っています。
今、何を想うのか。未来へ向かう13名の想いをぜひご覧ください。



カリキュラム

昨年は外部講師をお招きすることが難しく、オンラインの稽古となるが多かったのですが、今年は佐渡においていただき直接指導を受けられる機会が増えました。
感染対策に留意しつつ、地域の方々との交流や、祭りなどの行事にも参加することができました。

稽古(外部講師)



発声(野上結美先生)



身体基礎(金子竜太郎さん)



水口囃子(水口囃舎・野村和仁さん)



魚のさばき方(岩崎ひろさん)



山菜とり・俳句(赤塚五行さん)



琉球舞踊(金城光枝先生)

稽古(鼓童メンバー)



鬼剣舞(藤本吉利)



手踊り(小島千絵子)



唄(藤本容子)



太鼓の稽古(齊藤栄一)



メンバーとの合同稽古(屋台囃子、SHAKE)



ものづくり



竹箸づくり



バチづくり(見留知弘)

農作業



田植え



稲刈り

地域との交流・実地研修



学校林作業



佐渡宿根木公演



岩首祭り



中学校交流公演

研修所の一日

特に朝の時間の過ごし方を中心にご紹介します。



起床

日直が拍子木を鳴らします
(夏は5:00、冬は5:30)



体操

ラジオ体操や屈伸など
(夏は校庭で)



掃除

ぞうきん掛けで身体を目覚めさせます



ウォーミングアップ

全身の筋肉の連動を意識します。
闇雲に走るのではなく、早朝にバランス良く筋肉をおこすことで、怪我の防止にも繋がっています



ランニング

心肺機能アップと無駄のない身体使いを目的とし、研修所から坂を下り、海沿いの道を30分間走ります



坂道ダッシュ

坂道の上では、演奏後の息が上がった状態でも声が出るように声出しを行います



食事当番

彩りや栄養のバランスを考えてメニューを決め、研修生全員分の食事を作ります



朝食

食事の前後には「いただきます」「ごちそうさまでした」と皆で手を合わせます



稽古

太鼓のほかにも能や茶道など、様々なカリキュラムがあります

「料理について」

「おいしいものを作りたい」という気持ちは、舞台上で太鼓で何かを伝えたいという気持ちにもつながってきます。研修生は加工品を極力使いません。なぜなら自分の目で新鮮なものを見分ける力を養うためだと思っています。マヨネーズを手作りすることによって「こんなにも油を使うのか」など、いろんな発見があります。原点に戻ること、自分の中に「こだわり」が生まれてくることを実感しています。



二年生

〈39期〉

小林 遼太

石井 ひかる

谷川 和馬

前島 空

岩淵 倅成

廣寄 一馬

小川 蓮菜

武田 凜花



親友からもらった大切な靴と、そのとき食べていた柿

二年生になり、後輩に教える機会が必然的に増えました。その中でやり方を教えたつもりでその場を去り、しばらくして後輩のやったものを見ると、教えたやり方とは違うようになっていました。その時に、自分が伝えたつもりでも、相手が理解していなければ伝えたことにはならないことを実感しました。それらは演奏にも通ずるものがあり、いくら強い想いを以て演奏しても、相手の心が動かなければ伝わらず、自己満足で終わってしまいます。心を動かすには、相手の思っている以上のことをしなければ届かないと思います。

どんなことをするにしても「なんのため」かを明らかにして、少しでも人の心を動かせる演奏者になりたいと、ここで私の生活を通じて感じています。

19歳 神奈川県横浜市出身

ひろさき かずま
廣寄 一馬

心を動かす



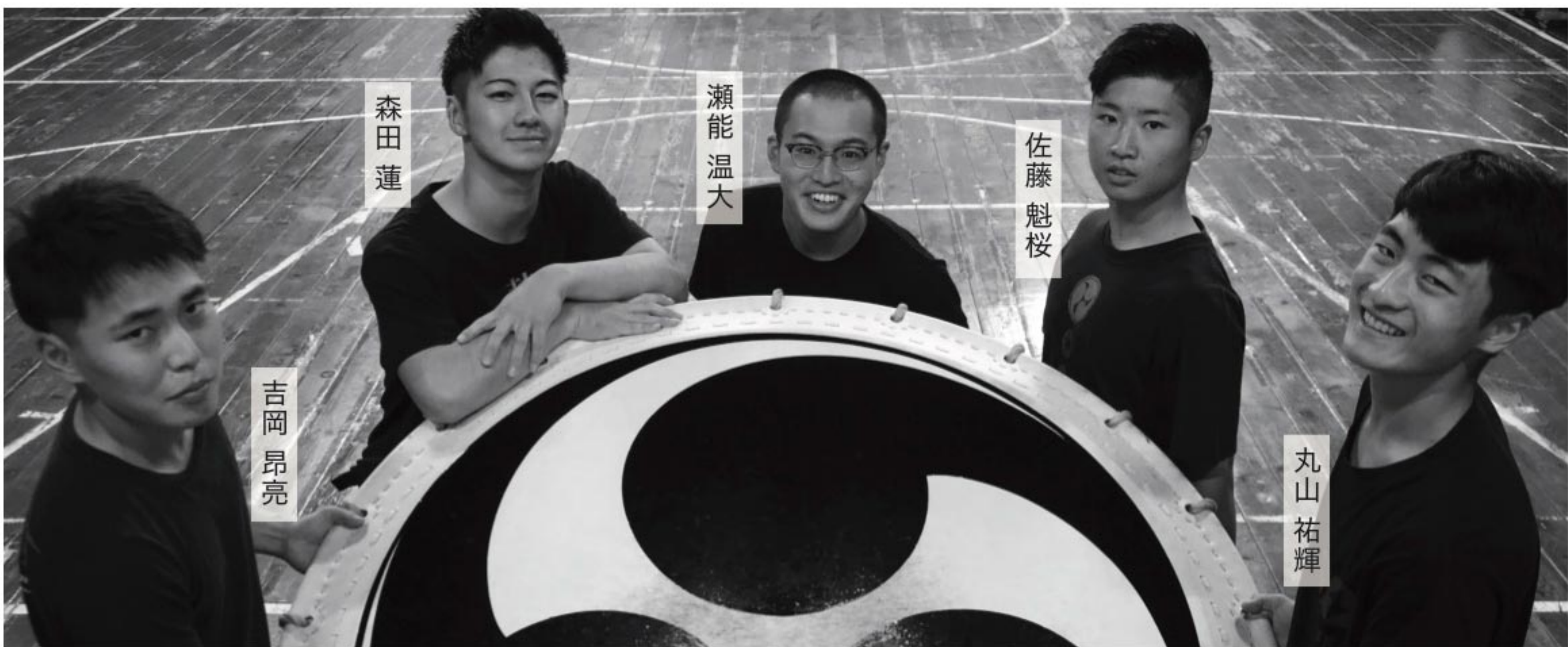
隅に放られていた角材から作った刀。もちろん鞘もあります！

この一年半、僕は生きることについて考え続けた。そのきっかけは祖母の死。合格の通知を受け一か月も経たぬうちのことだった。生きる気力は欠かずとも胸裏にはただ「生きるって何だ」と問いただけが残った。生きるとは苦痛に耐え続け、厳しいだけだと思っただけで佐渡へ渡った。研修所の日々。ふとした瞬間に気付く美しさや喜びがあった。季節を越えようやく実を結ぶ稲の力強さ。脱穀して口にした時の喜び。人々の芸能や祭りに対する熱い気持ち。本物の暑さ寒さ自然を肌で感じ音楽を共につくる仲間。物に溢れ心は貧しくなっていく現代では簡単に見つけられるものではなかった。自然と人との営みが厳しい世界でまばゆく美しく、生きていく。僕はこの美しさ、生きる喜びを音楽で伝える為、生きる。

19歳 東京都府中市出身

たにがわ かずま
谷川 和馬

暮らす学ぶ創る、生きる



「太鼓芸能集団 鼓童」
メンバー養成コース

一年生

〈40期〉

名前、年齢、出身地

- 1 研修所に来る前、何をしていたか
- 2 特技・得意料理
- 3 研修所でのポジション（係、役割、役どころ）
- 4 佐渡で見つけた宝物
- 5 自己紹介

丸山 祐輝

（まるやま ゆうき）

19歳 神奈川県横浜市出身

- 1 バイトをしてお金を貯めていました。
- 【特技】整理整頓
- 【得意料理】お弁当サイズの卵焼き
- 食材系
- 4 地元の集落の方や島内の方の暖かき。初めまして！マルです！
- 4月に佐渡に渡って早6か月がたち、研修所のことはもちろん、田んぼや畑など様々なことの知識が増えました。そんな中でも、まだ知らないことや分からないこともたくさんあるので、もっともっと知識をつけ一人の人間として成長できるようにがんばります！

吉岡 昂亮

（よしおか こうすけ）

22歳 栃木県日光市出身

- 1 大学生。臨床心理学を専攻して人の心の動きなどを学んでいました。
- 【特技】ゴリラのものまね。
- 【得意料理】ナムル。
- 3 運転、防災、ゴリラ担当
- 4 信じられないくらいきれいな佐渡の星空が宝物です。
- 5 初めまして。研修生最年長のコウスケです。研修所の毎日は非常に濃くて、これ以上無いほどに自分と向き合わせられます。つらいこともたくさんありますが、それ以上に得られるものがたくさんあると感じています。今を全力で楽しんで頑張ります！

佐藤 魁桜

（さとう かいおう）

19歳 宮城県登米市出身

- 1 高校卒業後一年間アルバイトをしていました。
- 【特技】釣り
- 【得意料理】ガバオライス
- 散髪屋
- 3 感謝の気持ち。
- 4 宮城県出身のカイオウです。私は日本の太鼓打ちになり、見て聴いてくれる人に笑顔と感動、そして感謝の気持ちを伝えるために鼓童のメンバーを目指しています。

森田 蓮

（もりた れん）

19歳 群馬県桐生市出身

- 1 高校の部活動で和太鼓に熱中しながら、休みの日に篠笛を作っていました。
- 【特技】お菓子作り、篠笛作り
- 【得意料理】キャベツメンチ
- 3 衛生係。
- 4 火曜と土曜は「燃やす」ごみの日！自分と関わってくれるすべてのひと。門付けのあるお祭りに参加できた経験
- 5 PCRの結果が出ず、ハルトと佐渡入りが一日遅れたモリです。佐渡に渡ってケイタイと離れてから、実際に佐渡の風景を目で見たり、SNSではない人との関わりで小さな事でも感動したり、心に残ったりする生活を送れています。そんな気持ちになれる佐渡とこの研修所で全力で稽古に励みます！

瀬能 温大

（せのう はると）

18歳 神奈川県藤沢市出身

- 1 中高一貫の男子校に通っていて、学問と女性には縁遠い生活をしていました。
- 【特技】音感が良い、コミカルなポーズ
- 【得意料理】カレー、麻婆豆腐、ゴーヤチャンプル
- 3 研修所の昆虫担当（観察、駆除、捕食）
- 4 虫たちが生き生きと暮らしている自然集落の方々の暮らし、コミュニケーション
- 5 こんにちは、ハルトです。私は地元にいる時から昆虫が大好きで、自然豊かな柿野浦に来てワクワクしておりました。色々な虫が見られる事の喜びと共に、この暮らしの中で自然と触れ合い、自分の価値観の変化も感じています。その変化がどう音にあらわれるのか、今後の生活で向き合おうと思います。

もう怖いものがないです

小林 遼太
こばやし りょうた

20歳 愛知県あま市出身

研修所に来て、一番変わったこと。僕は研修所が真面目でかたい所だと思つて入所した。真面目な振りをして過ごしていると、「コバのすぎなようにやつてみ。」と所長に稽古で言われ、自分にとっての研修所が大きく変わった。研修所は「自分」がないとダメだと。自分のこうやりたーい！という気持ちを持たずに太鼓を打つても伝えたい事が伝わらない。太鼓、踊り、唄、全て気持ちが音や表情や動きに分かりやすく出てくる。まずは、何が伝えたいのか、気持ちを打つて何でもやること、大事だと思ふ。

これからの残りの研修生活、メンバーになつてからの大きな壁にあたると思うが、全部コバラしく僕がやりたいようにやらせてもらおうと思ふ。僕には、もう怖いものがないです。



自分で作った大好きなバットパチと相手の大平桶太鼓

実感

岩 渕 倭成
いわたぶち こうせい

20歳 埼玉県比企郡出身

僕は相手の事を考えてきた。自分の事が出来ないのに、人の事を考えていた。研修所に来て自分が悩んだり、悩んでいる人と接していく中で、自分の薄さを実感した。今の自分は一人では何も出来ない。困っている人と一緒に悩める人になりたい。そのために必要なものは、人に聞いたりインターネットで得た情報ではなく、色んな事に挑戦して失敗や経験から得た知識だ。

今は便利な物が増えて四季を肌で感じる事が減り、情報で溢れた世の中でコミュニケーションは頑張つてするものになつていくと思う。昔の人は暑さや寒さを耐え、生きる為に助け合い励まし合つてきたのではないだろうか。人間は自然の中で生かして頂いているということ、この研修所で少しづつ実感している。



種から育てたヒマワリを見ていると、一輪一輪違うけれど、どれも前向きなエネルギーを感じます。

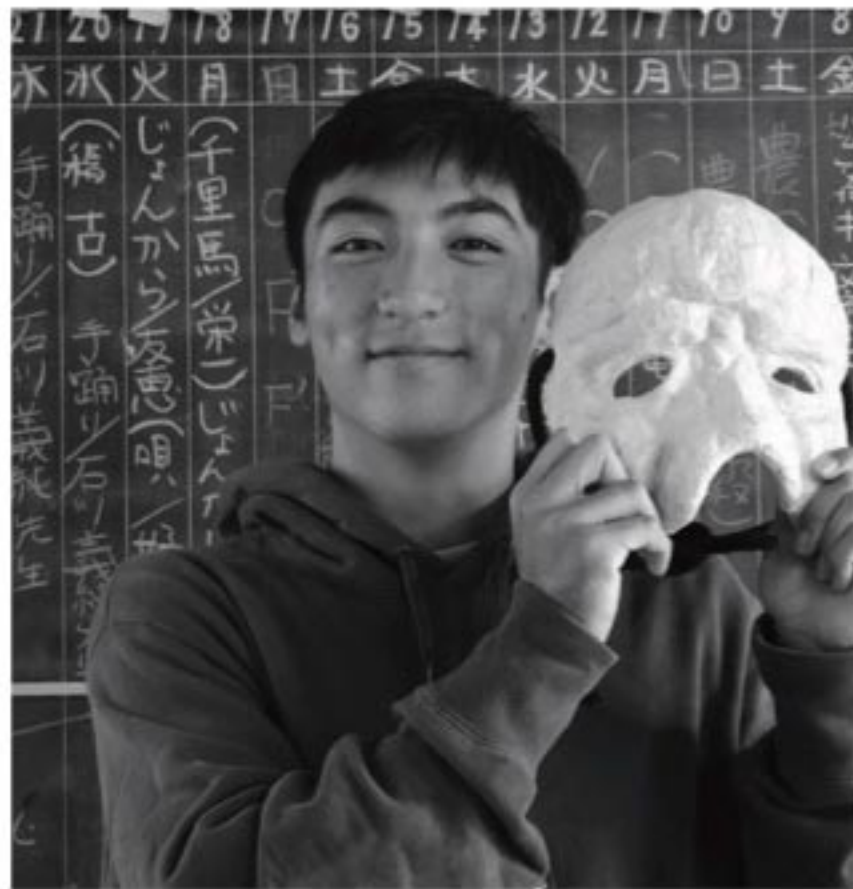
こころから「ご縁」

石井 ひかる
いしひ

21歳 東京都目黒区出身

進級したての初めての冬。悔しい別れが続く中である先生に出会った。その方は僕らの為に真正面から向き合い、共に笑つて、悩んで、叱つてくれた。そんな先生の凄まじいパワーの源は「ご縁を大切にすること」だった。僕はそんなの当たり前前だと思つていたが、後ろを振り返ると何もしていない自分がいた。

当たり前の事は口では簡単に言えるけど、行動にするのはとても難しい事だ。よく噛んで食べるとか、相手の気持ちを考えるとか。そういつた事が出来ている人には多くの人がついて行くんだと思う。だから僕は出会いを大切にしよう。色んな人と向き合い、刺激し合えば、何かするパワーが生まれてくるかもしれない。先生が僕を変えてくれたように。



色んな出会いが詰まった黒板と「ローソ」の鼻切り面

心を打ち抜く音

前島 空
まえしま そら

22歳 山梨県西八代郡出身

私は、小学校一年生の時に、太鼓を始め、よく先生に言われた言葉で「太鼓は打つのではなく、打ち抜け」と教えられました。打ち抜けとは、どんな音だろう。太鼓を叩きだした頃は、ただ楽しくて、拍手をもらうのがうれしかった。高校の和太鼓部では、表現することの難しさを知り、今は音を伝える事を日々考えて稽古をしています。ここ研修所で、太鼓と向き合う中で、打ち抜く音とは、太鼓を打ち抜くだけでなく、人の心を打ち抜く事だと感じています。太鼓だけではなく、他の表現においても、心を打つ演奏ができる、鼓童のプレイヤーになりたいです。ここでの生活もあと三か月となりました。一日一日の生活や稽古を大切に最後まで走りきります！



体作りのため「巴」という演目で日々打ち込んで大平桶太鼓！

笑、勝、生

小川 蓮菜
おがわ はな

19歳 岩手県奥州市出身

毎日笑う。それは、幸せな事。同じ釜のご飯を食べている同期七人には、沢山の幸せを貰っている。でも、その七人とはライバルである。

研修所は、「不安」「苦しみ」「悩み」「辛さ」様々な感情が生まれる。その感情が生まれても、私はそれを相手に伝えるのが苦手だ。自分の中で納得できない時、相手に伝わらない時、沢山泣いて、悩んで、解決して、その繰り返しだ。でも、それがここに来た本当に見つけたかった事なのかなと思ふ。

研修所は、ライバルに勝つ場所。自身に勝つ場所。そんなのではない。ライバルでもあり、大切な仲間、そして自分を信じ成長していける素敵な場所だ。



元メンバーの渡辺健吾さんが書いた鼓童研修所の看板が薄くなっていたので塗り直しました！

大切なもの

武田 凜花
たけだ りんか

20歳 宮城県柴田郡出身

この研修生活の中で大切なものがたくさんできた。オナラで心の距離を縮めるヒロ。刀すらも一から手で作るガワ。太鼓で笑いを届けるお笑い好きのコバ。気付きピカ一の優男コウセイ。どこでもモンペを着て踊るヒカル。精神最年少段「通り」命のソラ。声でかオバケのハナ。そして自分がこれだと見つけた楽器が締太鼓である。ある稽古の日、屋台囃子で地を打つ知弘さんの姿を見てから自主稽古で締太鼓の前に立つことが増えた。鼓童の音に近づいているのかは分からないが、少しずつ音は変わっていく。同時に、同期の一打一打に込める思いもどんどん強くなっていくのが分かる。

研修期間二年というの長いように短い、残りの期間、その先の生活も自分らしく、笑顔で私は生きていく。



色々な思い出が詰まった稽古場と締太鼓

二〇二一年講師の先生方

(五〇音順・敬称略)

- 青柳洋子 「能」宝生流教授嘱託
- 赤塚五行 「俳句」新潟日報佐渡版 俳句選者
- 朝倉大輔 「能」シテ方 宝生流能楽師
- 石川義純 「津軽手踊り」宗家石川流師範
- 伊藤多喜雄 「唄」民謡歌手
- 岩崎ちひろ 「魚のさばき方」魚屋
- 小木さざ波会 「小木おけさ」
- 加藤健 / 加藤酒造店の皆様
「酒蔵見学・酒造り体験」
「金鶴」醸造元
- 金子竜太郎 「身体基礎」和太鼓奏者
- 狩野泰一 「篠笛」篠笛奏者
- 京矢彩希 「ボディワークトレーニング」
ピラティストトレーナー
- 金城光枝 「琉球舞踊」琉球舞踊家・
太圭流華の会師範
- 日下敏敬 「柿畑の作業」弘仁寺住職
- 葛原正巳 「陶芸」
- 野上結美 「ヴォイストレーニング」声楽家
- 野村和仁 「水口囃子」水口ばやし
水口囃舎代表
- 松田祐樹 「講義」佐渡の芸能研究者
- 桃井宗生 「茶道」裏千家学校茶道教授
- 山本健三 「ランニングの基本」
佐渡市陸上競技協会理事長
- 柿野浦、岩首地区
ならびに佐渡の皆様

- 鼓童メンバー講師： [太鼓、唄、踊り、笛、邦楽器類、外部講師の稽古立会い等]
藤本吉利、小島千絵子、藤本容子、山口幹文、齊藤栄一、見留知弘、宮崎正美、阿部好江、小松崎正吾、地代純、三浦友恵
- スタッフ講師 (主な担当)： 赤澤京(農作業・祭り稽古立会い・生活面全般)、石原泰彦(農作業・剣舞・生活面全般)
大井キヨ子(小木おけさ踊り・裁縫)、後藤美奈子(俳句立会い)、菅野敦司(自由研究・鼓童の話)
高津万理(料理・茶道立会い)、本間康子(サンバ打楽器・能楽立会い)

お悔やみ
佐渡陸上の普及に尽力され、ランニングを通じて鼓童(前身の佐渡の國鬼太鼓座時代から)と佐渡を繋いでくださった山本健三さんが10月22日にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(写真:今年5月の「ランニングの基本」の時間)



鼓童文化財団研修所 ご支援のお願い

太鼓芸能集団「鼓童」の舞台を花にたとえれば、研修所はベースとなる土を耕し、根を育む活動にあたります。鼓童は財団を設立して以来、研修所を公益的な活動と位置づけて運営してまいりました。演奏の技術はもとより、その人間性すべてが舞台上にそのまま表れるとの考えから「くらす・まなぶ・つくる」を柱に、まず何よりも生き方を磨くことに重きを置いております。

ぜひ、夢に向かう研修生の思いを支えていただけませんか。皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。

なお、お寄せいただいた支援金は、公益財団法人への寄付金として、所得税(お住まいの自治体によっては住民税も)の優遇措置の対象となります。

研修生育成支援

1 研修所設備補修、研修生育成支援

1996年に旧岩首中学校の校舎跡をお借りして開所し、研修生の学び舎、そして生活の場でもある「柿野浦研修所」。築70年を越えて老朽化した建物は補修の必要があり、また研修所の運営にも年間約3,000万円の費用がかかります。皆様より引き続き「研修生育成支援」にご協力いただけますようお願い申し上げます。

ご送金先

[郵便振替]

加入者名：公益財団法人鼓童文化財団

口座番号：00690-9-25829

「研修生育成支援」と明記の上ご送金ください。

[インターネット]

鼓童サイト「ご支援お申込みフォーム」ではクレジットカードをご利用いただけます。

銀行振込、郵便振替をご希望の方には、メールで口座情報をお知らせいたします。

www.kodo.or.jp/total_support またはQRコードよりアクセスをお願いいたします。



2021年12月までにご寄付をいただいた皆様のお名前を(ご希望により)鼓童サイトにご掲載させていただく予定です。
www.kodo.or.jp/total_support/our-supporters

2 鼓童×きしゃぼん 「どんどこ古本募金プロジェクト」



鼓童文化財団は「古本募金きしゃぼん」の協働パートナーです。「きしゃぼん」は、ご自宅に眠っている本・DVDなどをリサイクル換金し、指定の団体(協働パートナー)に寄付する仕組みです。当プロジェクトを通じていただくご寄付は、研修生の支援に使わせていただきます。

おかげさまで、皆様からのご寄付により研修生の稽古用のパチ材に換算して、800組以上を購入することができました!(2015年より開始。2020年は1年間で323,690円、今年は9月までで30万円を超えるご支援をいただきました)

[お問い合わせ] 古本募金きしゃぼん
フリーダイヤル 0120-29-7000
平日 9:00~18:00
URL: kishapon.com/kodo/

3 物による支援(インカインド)

鼓童ではご寄付によるご協力のほか、物品等のご提供によるご支援も承っております。2021年度も消毒液や着物、お米など様々な物をご提供いただきました。このようなご支援をいただける方は、ぜひ鼓童文化財団までご連絡をいただけますようお願いいたします。

※ ②、③は税制上の優遇措置はございません。

「鼓童ハートビートラヂオ」で研修所が特集されました。

「鼓童ハートビートラヂオ」とは、普段、舞台では感じることのできない演奏者やスタッフの声をお届けしたり、リスナーの皆様からの質問やメッセージ、リクエストにお答えしていく「YouTube版ラジオ」です。

10月に「来れ! 研修生」として、2回にわたって研修所を特集。現役メンバーの小松崎正吾と三枝晴太、そして研修所所長の石原泰彦が出演して、自らの研修生時代を振り返りながら、研修所について熱く語りました。

ぜひ、ご視聴ください!



#57・前半 (2021年10月2日公開)

<https://youtu.be/4p4znABG2qQ>

[主なトークテーマ]

- 研修所という場所の説明
- 研修生の1日のスケジュール
- 研修所で学べること、感じられること。
- 「生活即舞台」について
- 「農作業をすること、太鼓を叩くこと、その二つの繋がり」
- 「必要最低限の暮らしをする意味」



#58・後半 (2021年10月9日公開)

<https://youtu.be/3Vl5snqk8xM>

[主なトークテーマ]

- 研修所で、楽しかったこと、苦しかったこと、泣いたこと
- どんな人と共に演奏したいか、どんな研修生を望むか
- このコロナ禍の社会において、芸術の持つ意味、太鼓の持つ意味、鼓童ができること、とは。



研修生募集

鼓童では次代を担う研修生を募集しています。2022年度研修生の募集は11月30日まで。あなたの可能性を試してみませんか。 www.kodo.or.jp/apr